

第115回 森で遊ぶ会

船越堤公園樹木観察会

日時 平成24年12月8日 天候：晴れ

参加者 13人

参加インストラクター

担当：井上 大石 アシスト会員：青野 内野 越智

当日はこの冬初めての寒波が日本に襲来し、西日本～東北、北海道は大荒れとなっていた。船越堤公園でも強い風が吹き荒れており、厳しい天候であったが、13名の方が参加してくれた。幸い天気は晴れて、公園の自慢の富士山の眺望はすばらしかった。

コースは公園入り口の池のわきから、桜の里から広場を經由し、原生林わきを頂上付近まで登った後、下りながら星の広場、紅葉の里を經由し、せせらぎ川から野鳥の森を通り出発点に戻ってきた。

紅葉も峠を越えて、落葉木も目立ち始めた季節がら、「冬木を観察しよう」のタイトルのもと、船越堤公園の樹木150種類及び観察のポイントとなる冬芽、葉痕、枝の縦～横断面、枝、葉、果実等が記載され、かつ公園に植栽されたものか否かの分類もされた観察資料が配布された。参加者はこの資料を持って、公園内を散策した。

主として、井上会員から紅葉する樹木、冬芽、葉痕、樹形、樹皮の様子、枝、蔓植物、毛のつきかた、葉脈の透過性、等さまざまな切り口から説明を受けた。

公園内では、サクラ、イロハモミジ、オオモミジ、クヌギ、コナラ、ヤマボウシ、アカシデ、イヌシデ、ネジキ、ゴンズイ、ガマズミ、イヌビワ、クマノミズキ、ムクノキ、エノキ、ニセアカシア、ブナ、メタセコイア、ラクウショウ、モミジバフウ、ニシキギ、アカメガシワ、クサギ等の紅葉が残っていたが、すでに散ってしまった木もあった。10日程前には、NHKで公園の見事なモミジが放映されたが、盛りは過ぎていた。

クヌギの冬芽の断面は五角形、アカシデの芽鱗は十字対生、マンサクの冬芽は裸なのにトチノキは芽鱗の上に^ハの重装備、ニセアカシアの葉痕は面白い形をしている、ネジキの維管束痕は一つしかない等、冬芽～葉痕の興味ある事実を見ることができた。

似ている木を樹形、毛の有無、木肌から判別出来ることもわかった。メタセコイアとラクウショウ、クヌギとコナラは樹形から、サザンカとツバキ、ヤマボウシとハナミズキは葉への毛の有無から、アカシデとイヌシデ、ムクノキとケヤキは木肌の様子から同定できることがわかった。クロガネモチ、サネカズラは見事な実をつけていた他、ゴンズイ、ウメモドキ、ナンキンハゼ、ネズミモチの実もみられた。

色々観察し、あわただしく園内をまわったが、終わって見たら、予定を45分も超過していた。それだけ、充実した見学会であったと言える。

